



子どもたちの交通安全教室にやりがい
交通指導隊に入ったきつかけは？
金崎さん(以下金) 同じ安渡地区で交通指導隊をしていた方に誘われました。それまで交通安全母の会に参加していたのがご縁です。
指導隊のお仕事でやりがいを感ずるのはどんなところですか？
金——交通安全の街頭活動や大きなイベントの時の交通誘

導など色々ありますが、特に大事に思うのは、毎年春に行う小学校や幼稚園での交通安全教室です。子どもたちに横断歩道の渡り方、自転車の乗り方を指導しますが、教室が終わっても、私の顔を覚えていてくれて、挨拶をしてくれたり、私が制服を着ていなくてもピリツとした顔できちんと道路を渡って見せたりしてくれます。
教えたことを実践してくれているんですね。
金——はい。とても嬉しいですし、このようなことが地域の大人やお年寄りみんなに対しても日常的にできていけば良いなと思います。
自分が元気でいることも町のために
イベントの司会業などもされ

ている金崎さんですが、町の為に、と普段考えていることはありませんか？
金——何も大きなことは考えてはいませんが、年を取って、何でもいいから人の役に立てないかと考えるなかで、まず自分が元気に過ごし笑顔でいることが、良い町づくりになるんだと感じるようになりました。イベント司会などは震災後に声をかけられる事が増えましたが、家にばかりいてもと思い、自分が元気でいるために外に出て動いています。高齢化が進んでいきますが、私たち高齢者は段々できる事が限られてきます。でも、直接役に立つためだけでなく、自分が笑顔になるために、何かを続けていきたいです。



かねざき いほこ
金崎 伊保子さん
(65歳・大槌町交通指導隊)

交通指導隊の一員として、子どもたちの交通安全教室などの活動をするほか、町のイベントの司会を頼まれるなど、元気に活動されています。

大槌びと
クロストーク
Cross talk

10月号 菊池 晃総さん

11月号 金崎 伊保子さん

前号と今号の大槌びとが対談するコーナーです。様々な分野で活躍する大槌びとの皆さんが、誌面の上で出会います。「たし算」ではなく、「かけ算」の絆が、また新たな大槌を創っていきます。

お二人は面識はありますか？

金崎(以下金)——お父さん、お母さんは前からよく知っています。直接話すのは初めてですね。

聞いてみたいことありますか？

金——いつも聞かれるかもしれないけど、お嫁さんはもらわないの？

菊——確かに必ず聞かれます(笑) もらえないんじゃないかなあ。忙しくてなかなか時間もなくて。

金——せっかくな事を頑張っているから、結婚したら、きつと支えになると思うよ。おせっかいだけど。

菊——いいえ。段々必要に思つかもしれないですね。今回お二人が知り合ったご縁を機に、何かやってみたいことなどはありますか？

金——交通指導隊や警察のボランティアの仕事やってみませんか？

菊——商売柄、人と接するのも上手だし、顔も広いから、適任だと思うよ。

金——時間がか中々とれないんですけど、考えてみます。

菊——ぜひお願いしたいです。菊池さん達のような若い世代が担って

てくれれば、またその次の世代とつなげていくから。

